



北区エバンジェリスト検証授業② 小2・特別活動

「デジタル社会を生きる力」を育む

今年度2回目の検証授業は、岩淵小学校・武田心平教諭が2年生で行ったデジタル・シティズンシップ教育(以下DC教育)です。DC教育とは、インターネットやデジタル機器を正しく使い、社会の一員として責任ある行動ができる力を育てる教育です。5月号でも説明していますので、ぜひ読み返してみてください。



■「まじめだね」の意味って、人によって違う？

前時の授業では、「まじめだね」と言われたときの受け取り方が人によって違うことに気付く活動を行いました。子どもたちは、「人によって感じ方は違うよね。」と、自然に話し合う姿が見られ、多様な考え方があることをしっかり理解していました。

■スタンプでは？ SNSの特性に気づいた子どもたち

本時では、東京都教育委員会が発行する教材「GIGAワークブックとうきょう」を使って、「おもしろいね」という言葉とスタンプを送ってきた友だちの気持ちを想像し、5つのパターンに分ける活動を行いました。その後、友だちと見比べると、「同じ言葉でも感じ方は違うんだね!」と、改めて驚いていました。

先生が、「どうして送った人の気持ちが伝わらないんだろう?」と問いかけると、「顔が見えないから。」「スタンプでも気持ちは伝わらないから。」などSNSならではの気持ちの伝わりにくさに多くの子が気づき始めていました。

「もっと言葉を増やせば、伝わりやすくなると思う!」と、工夫を提案する意見も飛び出し、子どもたちの前向きな姿が印象的でした。

■「きたコン」もネットを使っていた!? 驚く子どもたち

先生が「じつは『きたコン』もインターネットを使っているんだよ。」と伝えると、「うそー!」「使っていないよ〜」と驚きの声が上がりました。家庭で保護者が使っているSNSアプリは「きたコン」では使えないため、普段使っている実感があまりないのだと思われます。でも、ここで全員が体験している「きたコン」が出てきたので、子どもたちは興味深く話を聞いていました。



授業の振り返りでは、「きたコンは学習のために使います。」「SNSを使うときは、自分の気持ちが伝わるようにしたいです。」という声が聞かれました。高学年であれば「どう伝えるか」まで考えを深めますが、2年生では経験が少ないため、先生がまとめて整理しました。

■授業後の先生たちの話合い

授業後の協議では、「SNSを題材にするのは2年生には早すぎるのでは?」という意見が出ましたが、「感じる力が豊かで、どんどん吸収する2年生だからこそ、早いうちに学ぶ意味がある」という方向でまとまりました。そして、そのためには、授業前半から子どもたちが共感しやすい題材や場面に置きかえることで、自分ごととして捉え、さらに主体的に考えられるのではないかという、よりアップデートできる提案もありました。

「北区GIGAスクール通信 みらい」は、北区立学校における北区ICT環境を活用した取組や家庭と連携する取組等について、保護者や地域の皆様にに向けて、学び未来課が毎月発行いたします。

きたちゃんコンちゃん

by Toshi



●ウェルビーイングとは?

「ウェルビーイング」とは、心や体が健やかで、人とのつながりの中でも安心して毎日を過ごせるような、個人や社会のよい状態を表す言葉です。

「デジタル・シティズンシップ教育」では、このウェルビーイングを大切な柱のひとつと位置づけています。デジタルの世界でも現実の社会でも、子どもたちが安心して、健やかに、そして自分らしく成長していくための基本的な考え方として、今後ますます重視されていくものです。